４月号営農インフォメーション

水稲・麦の管理のポイント
　　水稲・・・育苗～田植準備の時期です。
　　麦　・・・タンパク含量向上のため実肥の施用を行います。

水稲

①　出芽期の管理

出芽の適温は昼間、夜間共に３０～３２℃です。出芽の温度がこれより高くなると、もみ枯細菌病やリゾープス菌などによる苗立枯病が発生しやすくなるため注意が必要です。

②　緑化期の管理

出芽苗を直射日光に当てると、緑化しなくなる白化現象が発生するため、育苗器からハウスなどへ出す場合は、早朝か夕方に行ってください。適温は昼間２２～２５℃、夜間１５～１８℃で、規定の温度以下になると生育が抑制されるため温度管理についても十分注意が必要です。

③　硬化期の管理

硬化期は苗の生長を促し、充実した活着のよい苗に育てるよう管理します。外気に慣らし、日光に十分当ててください。適温は、昼間は１８～２０℃、夜間は１２～１５℃で、日中最高温度が３５℃以上、夜間の最低気温が１０℃以下にならないように管理します。移植が近づけば、特に寒い日以外は、ハウスを開け放ち苗の硬化に努めます。晴天時、水不足にならないように午前・午後の灌水が必要となります。

硬化期は外気にならし、健全な苗づくりを行います。

育苗期間の適温

期間 / 昼夜別	出芽期間 2～3 日	緑化期間 2～3 日	硬化期間 4～16 日
昼　間	30～32℃	22～25℃	18～20℃
夜　間	30～32℃	15～18℃	12～15℃

④　濁水対策

水田から流出する濁水が琵琶湖等への環境負荷の要因となっていることから、本田準備から田植えにかけての作業は濁水対策に最も配慮が必要です。

⑤ **移植**

高品質、良食味米生産のために次の事項を実践するよう指導してください。

● 遅植えの実施（５月連休以降の田植え）
● １０ａ当たり１８箱以内を基準に、坪当たり５０～６０株以下の疎植
● 株当たり３～４本の細植え
（圃場条件に応じ極端な細植えには注意が必要）
● 補植は最小限に抑える
（連続して欠株が５株以上ある場合にのみ、２～３株の補植を実施）

●初中期一発剤（初期剤）除草剤散布後は、土壌に除草剤による処理層ができるため散布後1週間は圃場内に入らないようにして下さい。

小麦

○生育状況（3 月 31 日時点）

11 月上旬播種の圃場について、生育の進んでいる圃場では 3 月下旬より出穂がはじまり早い圃場では穂揃いしています。

昨年と比較すると、バラツキはありますが、１週間程度早い生育になっている為、収穫も早まる事が予想されます。

○赤かび病防除

赤かび病は、子実の合わせ目にピンク色のかびが生じる病害で、出穂から乳熟期の２週間の間が最も侵されやすく、この期間に曇天で、小雨が続き、湿度が高いと多発します。赤かび病の毒素は毒性が強いため、基準値を超えた場合は販売できません。赤かび病予防のため、開花期頃の２回防除を必ず実施するよう指導してください。第 1 回目防除は開花期に実施し、第２回目の防除は１回目散布後から７～１０日後に実施します。

※赤かび病の毒素（ＤＯＮ）は毒性が強いため、暫定基準値（DON：1.1ppm）を超えた被害粒は市場流通することができない為、経営所得安定対策の交付金は対象外になるので注意してください。

防除薬剤（例）　　10a 当たり

品種	農薬名	使用方法散布：希釈倍数	10a 当たりの使用量・希釈倍数	収穫前日数	使用回数
ふくさやか	ﾜｰｸｱｯﾌﾟ粉剤 DL	動力散布機による散布	３ｋｇ	７日前まで	３回以内
	ﾄｯﾌﾟｼﾞﾝMｿﾞﾙ(液剤)	無人ヘリ・ドローン（8 倍）	０．８ℓ	７日前まで	３回以内
		ｾｯﾄ噴射・ﾋﾞｰｸﾞﾙ等散布（1,000～1,500 倍）	６０～１５０ℓ		
	チルト乳剤 25	無人ヘリ・ドローン（8 倍）	０．８ℓ	７日前まで	３回以内

無人ヘリによる防除での薬剤量と水量（１０ａ当たり）

［トップジンＭゾル（液剤）・チルト乳剤］薬剤 100ml に対し水 700ml　合計 800ml（0.8ℓ）